

令和4年度第3回広島市社会教育委員会 会議要旨

日 時：令和4年12月27日（火）15：30～17：17

場 所：広島市男女共同参画推進センター5階研修室4

議 題（公開・非公開の別）：

- (1) 議長・副議長の選任（公開）
- (2) 「広島市立図書館再整備方針」の策定について（公開）
- (3) 中央図書館の再整備候補地の比較検討について（案）（公開）

傍聴人：10名

出席者：(1) 委員 8名

砂橋委員、山川委員、平尾委員、岩元委員、松本委員、湯浅委員、鈴木委員、板倉委員

(2) 事務局 2名

市民局次長、生涯学習課長

【議事（会議要旨）】

(1) 議長・副議長の選任について

広島市社会教育委員会規則に基づき、互選により議長に砂橋委員、副議長に山川委員が再任された。

(2) 「広島市立図書館再整備方針」の策定について

生涯学習課長が、資料1及び2に基づき、「広島市立図書館再整備方針」について、前回から改定した内容を説明した。

<意見、質疑等>

(平尾委員)

資料2において、図書館全体として利用者数が減少しているのは、全国との比較においてはどうか。何が理由で減少していると分析しているのか。減少の要因を教えて欲しい。場所を変えれば利用者数が伸びるのかということと、利用者数が減少している要因はリンクしてくるのではないかと思いますので、その点について教えてほしい。

もう一つ「広島市立図書館再整備方針（案）」について、パブコメが338件あり、今回は場所を問うたものではないとのことであったが、現在地中央公園内での建て替えを希望するものが158件、エールエールA館や広島駅周辺への移転を希望するものは33件ということで、5倍程度の差があった。場所の話ではないと言いながらも、意識しておかなければならないと感じたが、これについて加味された部分はあるのか。

(生涯学習課長)

全国的に、図書館の利用者数、入館者数は減少している傾向がある。様々な要因が考えられるが、一般的には、スマートフォンやパソコンの普及により、わざわざ図書館に行かなくても調べることができることが大きな要因であると言われている。

パブコメについては、あくまで図書館の機能やサービスについて意見を伺ったものであるが、場所についての意見もいただいたので、その他の欄に掲載しており、市としては様々な意見があると受け止めている。

(平尾議員)

利用者数の減少について、場所の問題ではなく、全国的な傾向であるならば、場所が変わったとしても増加するものではないということか。

(生涯学習課長)

駅前に移転した複数の図書館に確認したところ、いずれの図書館も利用者数は移転前より増加していた。全国的な減少傾向はあるものの、市の調査では、駅前に移転した図書館で利用者が移転前より減少したところはなかった。

(山川副議長)

議論の順番を確認したい。最初に広島市立図書館再整備方針について議論をしたのは、平尾委員が御指摘されたように、利用者が減ってきている要因は場所が悪いということだけではない、つまり、利用者が減ってきているから場所を変えるという発想ではなく、機能やニーズが今の時代に合わなくなっているという状況の中で、図書館機能を見直そうと考えた時に、平成14年度及び平成23年度に策定した方針から、必要なニーズに対応する機能をしっかり盛り込んで、かつ広島らしさを踏まえた上で図書館の再整備をするという趣旨であったと思う。そして、今その再整備方針が策定されたことを踏まえて、再整備方針で策定された方針が実現できるのはどこですかという場所の議論に移ると考えて差し支えないか。

(生涯学習課長)

再整備方針については、場所がどこであったとしても、図書館として果たしていくべき機能を示したものと考えている。そして、その機能をより発揮できるのはどちらかという比較が次の議題になると考えている。

(砂橋議長)

御欠席の委員からも意見をいただいているので、議論の参考にさせていただきたい。

(生涯学習課長)

本日御欠席の金谷委員より意見をいただいているが、広島市立図書館再整備方針に関するものと、比較検討資料に関するものがあるので、ここでは前者について御紹介したい。

「本整備方針では様々なアイデアがきれいに整理されているが、開館後の運営資金・人材の計画がないため、本案の実行可能性が予見できない。運営体制・資金等が未定であるなら、当初の機能は、蔵書の充実と貸出機能に集中して、付随的な施設は、開館後の利用状況を見ながら拡充することを提案したい。」との意見をいただいた。

(砂橋議長)

その他の意見については、また次の議題において紹介していただくということで、他に意見がないようであれば、次の議題について事務局より説明をお願いしたい。

(3) 中央図書館の再整備候補地の比較検討について（案）について

生涯学習課長が、資料3に基づき、「中央図書館の再整備候補地の比較検討について（案）」の内容を説明した。

<意見、質疑等>

(板倉委員)

これまで図書館は特別なものという話をたくさんしてきて、皆が集まってくるような図書館をイメージしてワクワクした気持ちを持ってこの会議に参加した。今の公園の中で皆が集まって本を読みに来るような図書館を作れないものか。

(生涯学習課長)

今回の再整備方針は、広島市の図書館はこういう図書館であつたらいい、目指してほしいという皆さんの意見を聞いて策定したものである。その再整備方針で示した図書館の機能をより発揮するためには、より多くの方に利用していただくことが重要であると考えて、さきほどの説明をしたところである。

(板倉委員)

たくさんの方が利用するのが一番良いことであるというのは理解できるが、本を読むというのは特別なもので、その場でしか感じられない雰囲気がある。駅前の雑多な場所で、そういった雰囲気が得られるのか少し心配している。

(生涯学習課長)

駅前に移転した図書館は、どこの図書館でも利用者が移転前より増えている。本市としては、多くの人に本を手にとってもらい、借りていただくのが最も重要であると考えており、再整備方針の「誰もが読書を楽しめる場の提供」に力を入れて、多くの人に利用していただける魅力ある図書館にしていきたい。

(鈴木委員)

議論が始まった当初は、性急に決めていく印象を受けたが、アンケートを取るなどして様々な意見を聞くことで、方向性が明確になってきて、資料についても市民の理解を求める上で分かりやすいものになってきたと思う。

もし、現在地で建て替えをする場合は、仮施設を設ける場合と設けない場合があるが、設けない場合は工事中ずっと閉館しているということか。

(生涯学習課長)

参考資料1で示したとおり、仮施設を設けない場合は、基本的に今の中央図書館の空きスペースに図書館を建てるため、図書館を利用しながら建て替えることが可能という案になっている。

(鈴木委員)

仮施設を設けない場合は、移転する場合と金額にあまり差がないように思う。いずれにしても、蓋を開けてみたらすごい金額になったというのが最近非常に多いので、仮施設が必要であるならばその方向性を出した方が良いと思うが、今の時点でそれはないということでしょうか。

(生涯学習課長)

本市としては、エールエールA館への移転が最適と考えているため、仮施設を設けずとも、図書館サービスを停止することなく引き継いでいけると考えている。

(岩元委員)

資料の収集に関しては差がないとのことであるが、資料の保存についてはどうなのか。デパートには飲食店があり、火事でスプリンクラーが作動すると蔵書が駄目になるのではないかと。また、ネズミやゴキブリもいると思うが、その辺りはどのように考えているのか。出版社では、貴重な原版などは厳重な金庫に入れて保管している。資料の保存について、どのように計画されているのか御教示いただきたい。

(生涯学習課長)

貴重な資料については、専用の部屋を設け、現在と同様にガス系の消火設備を設置する。

(岩元委員)

移転しても、本は守られるという認識でよい。

(生涯学習課長)

一般図書については、どこの図書館でも基本的に水系の消火設備だが、貴重資料を保管する書庫では、ガス系の消火設備などを設置して対応する。

(岩元委員)

利便性に関して、青少年は基本的に自転車移動が多いと思うので、図書館利用者は駐輪料金が無料になるなどのサービスがあるとよいと思う。

(生涯学習課長)

駐輪場、駐車場については、周辺の状況と調整して可能なものは対応していきたい。

(山川副議長)

これまでプロセスが見えなかった部分を丁寧に見せていただいたので、なぜここまでできたのかについては理解できた。その上で、選択が非常に難しいと感じている。「誰もが学び、憩う平和文化の情報拠点」という広島市立図書館再整備方針のコンセプトに鑑みて、先ほどから生涯学習課長がエールエール A 館が優位であると言われているのは、「誰もが学び、憩う」というところで、利用者数の増加が望めるという点にあると思う。もう一方で、「平和文化の情報拠点」として見たときに、果たしてエールエール A 館への移転がベストな選択であるのかという点については、回答をいただいていないように思う。

駅前に図書館を移すことで利用者数が増えるというのは、実態としてあると思う。駅前に移転して利用者数が増えた事例としては、明石市や周南市などがあるが、反対に北九州市立図書館は駅から遠く利便性は低い、駅前に空間ができたときも移転の議論にならなかった。それは、図書館の周辺が文化創造の場になっており、利用者の増加を場所の指標とするよりも、文化創造を継続することを選んだものと推測する。それを考えると、現地で醸成してきた平和文化について、駅前に移転した時にそれが作られるのか、作るのにどのくらい時間がかかるのか、今まで醸成してきたものの継承が叶うのかということが自分の中で落とし込めていない。他都市において、平和文化の継承を標榜して図書館を駅前に移転した例があるのか、具体的な事例があれば示していただきたい。

(生涯学習課長)

そういった例は把握していないが、図書館を駅前に移した他都市は、平和文化の継承のために移転したというよりは、それぞれの自治体のニーズを踏まえて移転したのではないかと思う。

(市民局次長)

確かに現在地の方が平和記念公園に近いので、利用者の受け止めとして一体性を感じやすいというのはそのとおりだと思う。ただ、その思いの共有のためには広島を知ってもらうことが大事で、そのためには、通勤、通学や買物などでたくさんの方が訪れ、観光やビジネスで来られた方が容易に足を運べる場所に図書館があるのが望ましいと考えて整理をした。平和文化の振興については、シンボリックな部分で中央公園があるが、市内には他にも被爆建物や比治山などもあり、平和文化は広島市全体で醸成していくものだと考えている。

(山川副議長)

コンセプトはどちらでも実現できるという説明が最初にあって、「誰もが学び、憩う」については理解できたが、一方で、平和文化をどう継承するかについては納得しづらい部分があったので、それぞれの整備候補地でどう平和文化を継承・発展できるのかについて説明していただけると選択しやすい。

(松本委員)

様々なアイデアが整理されてきたと感じている。広島市民球場が移転した際にも様々な意見があったが、移転した後は良かったとなった。社会教育委員を務めてきて、図書館に関してこれだけ長年議論をしたのは初めてだったのではないかと思う。ある意味、私たち市民がもっと考えていかないといけないという課題を見つけ、広島市が主体となって取り組んできたのではないかと感じる。図書館に附属す

る様々な機能については、今後検討するという時代に入ると感じており、以前できたものはその時は良いと思ってもまた時代のニーズに合わせて検討する必要が生じる。

また、高齢者と関わる中で、やはり静かに本が読めて歴史も感じられる今の場所が素晴らしいという方もいれば、体力的な問題により段差や移動が大変なので広島駅周辺であれば行きやすいという方もいた。これも率直な意見で、賛成の方はなかなか声を上げる機会がないというのも背景にあるかもしれない。さまざまな制約がある中で一生懸命考えた策ではないかと思う。我々はここで移転に対する賛否を申し上げる立場ではなく、図書館の機能を考えるのが務めだと思うので、場所がどこにあったとしても広島市らしい図書館として運営できるように、前向きに議論していけたらと考えている。賛否両論ある中で、丁寧に説明しながら進めていくことが大切だと思う。

(生涯学習課長)

皆さんの意見を反映した再整備方針をしっかりと落とし込んで図書館を整備していきたい。

(平尾委員)

社会教育委員会において、便利な場所に移せば人が増えましたとするのは社会教育として敗北だと思う。この会では、街が機能して一人一人の暮らしが豊かになり、民主的な街が自治されるための社会教育が実現できるかという中身を考えなければいけない。駅前に移せば全てが解決するという感じに読めてしまって、少し難しいと思いながら拝聴していた。

先週資料をいただいて、時間がない中で読みながら思ったのは、3案検討のための資料を作っていたということになっていたのに急に2案になったこと、さらに、もう少し冷静なデータの比較が出てくると思っていたら、かなり解釈と意思を感じる比較資料だと感じた。全体で25回、30回近く「エールエールA館のほうがいい」という言葉が出てくる一方で、現在地に関しては一言もいいという言葉が出てきておらず、少し冷静な判断を欠いた作りになっていると感じた。

これに関しては、先日議会でもこの件について検討したと思うので、そこでの議論を教えてほしいというのが一つと、駅前に移す方が利用者数が増えるという点について、もしかしたら観光客やビジネス系の人は増えるかもしれないが、本当に利用したい人の数が増えるかというところのデータやバックグラウンドが見えないと思った。数だけを追うのは危険なところもあり、しっかりとした中身を考えるのが社会教育として大事な部分である。平和文化都市に相応しい図書館であるかどうか、非常に重要な観点であって、賑わいだけを優先してよいのか疑問に思う。

個人としては、社会教育委員を務めているが、建築の専門家でも防災の専門家でもないのに、資料を見ても非常に判断が難しいところがある。今回の資料において、防災防犯が重要な視点として項目に上がる一方で、耐震性などは難しくていろんな人に聞きながらも答えが出ないと感じた。そういうこともあったので、私個人として仲間と一緒に市長宛の要望書を出して、この件に関して、専門的に議論できる委員会が必要ではないかと言ったが、先日市長が記者会見で、本委員会に十分に専門性があると、要望を出した人に専門性がないだけだと言われた。しかし、本当にこの委員会で大丈夫なのかというのはやはり疑問がある。自分にも2歳と9歳の息子と娘がいるが、なぜかよく分からないけど図書館は移転してしまったというようなことにはしたくない。かように早急にどっちがいいということではなく、しっかりと検討する必要があると思う。やはりこの流れで決めてしまっているのかという疑問がある。

付帯決議には、利用者、有識者などの関係者に丁寧に説明して理解していただいた上で、とあるが、この有識者というのは社会教育委員会議と図書館協議会のことを指している。そこで、我々社会教育委員が理解できているかどうかについて、皆さんに聞いてみたいと思っている。僕は理解しようと頑張っているが、正直なところ難しすぎてできない。他の委員の皆さんが、どのくらい理解、納得できたかについて少し聞いてみたいがよいか。

(砂橋議長)

皆さんそれぞれに意見があると思う。

(平尾委員)

理解されたかどうかだけ聞きたい。

(生涯学習課長)

委員の方にそれぞれの立場から意見を言っていただく場であり、本市の考え方について皆様に説明する場であるので、説明した内容について理解できたかどうか聞かれるのであればそれは構わないが、今の説明では本市の考え方が分からないということなのであれば追加で説明させていただきたい。

(平尾委員)

それで構わない。付帯決議の内容からすると、この会議の役割は非常に大きいと思うので、この度いただいた説明を理解し、納得できたかどうかについて、皆さんに挙手してほしい。

(生涯学習課長)

さきほどの説明が理解できたかどうかを確認するのであれば差し支えないが、この会議は会としての結論を出す場ではないし、委員それぞれの意見があるので、エールエール A 館への移転の賛否を問うような場ではないということは共通の認識だと考えている。

(平尾委員)

私は、エールエール A 館がよいと思っているわけではないが、現在地建て替えが絶対であると言いたいわけでもなく、あくまで、付帯決議に示された前提条件のひとつである有識者の理解、が確かに充たされているのかどうか確認した方がよいと考えた。

(砂橋議長)

様々な議論があるが、あくまでも委員の皆様それぞれの意見を聴く場であるということなので、他の人が理解したかどうかではなく、平尾委員がどう思われたか御自身の意見を述べていただければよいと思う。

(平尾委員)

付帯決議の「理解していただいた上で」というのは、どのように確認するのか。

(生涯学習課長)

この資料は、皆様からいろいろな御意見をいただいて作成した再整備方針が基になっている。再整備方針の機能がどちらの候補地においてより発揮できるかについて、丁寧に説明をさせていただいたところであり、しっかり理解していただける内容になっていると考えている。本市としては、付帯決議に沿った対応になっていると考えている。

(平尾委員)

理解したかどうかではなく、説明したかどうかということか。

(生涯学習課長)

本市の考えを理解していただいたと思っている。

(平尾委員)

エールエール A 館に移転されたいということはよく理解したが、もう少し冷静な議論が必要ではないかと思う。

(砂橋議長)

様々な立場の委員がおられるので、それぞれの意見を尊重したいと思う。

(湯浅委員)

私は、「広島を知るエリア」の設置に期待をしている。広島市立図書館再整備方針において、「広島ゆかりの作家の文学資料については、まずは『広島を知る』エリア内において、その保管・管理及び活用を図るための専用コーナーの設置等の措置を講じることとし、その後、措置の拡大等の取扱いについて、別途検討することとする」と記載されており、さらなるサービスの拡充を図る際には図書館とは別に文学館などを設けることについて検討するということを初めて知った。

例えば、福山市の文学館には展示室が五つか六つあって本格的な文学館といえるものである。広島市においても、一つの展示コーナーではなく、展示室として、それぞれの郷土作家の直筆原稿、愛用品、業績など作家を知ることができる資料を展示できる部屋を設けてほしい。また、作家の映像なども紹介していただきたい。そのような展示室があれば、広く深く学べる空間になり、将来の文学館の企画実現にも役立つのではないかと思う。単に一つの展示コーナーに郷土作家の作品を集めたというのではなく、将来につながる文学館のための空間にしていいただきたい。そして、それが全国的にアピールできるエリアにもなるのではないか。

(生涯学習課長)

文学資料については、一旦エールエール A 館に移管してその保存及び活用を検討するが、今後の状況を見ながら拡大の方向についてしっかりと考えていきたい。

(砂橋議長)

欠席委員の意見の紹介をお願いしたい。

(生涯学習課長)

本日御欠席の金谷委員からいただいた意見を御紹介する。

まず、「図書館の再整備については、新図書館が果たす機能について十分に審議した後に、最適な立地が検討されると考えて本委員会に参加してきたが、議論が半ばの段階で、整備地の比較案が突然に提示されて、とまどっている。」との意見をいただいた。

これについては、さきほども御説明したとおり、本市としては、付帯決議に沿った対応をしてきていると認識している。

次に、「図書館整備という大事業のためには、蔵書や貸出図書の分析、資料費、職員配置（専任・非常勤・司書数など）、人口当たり貸出数、レファレンス受付数、ビジネス支援件数、各種事業の実施状況など詳細な運営データ、また、他政令市等との比較分析により、本図書館の強みと弱みを明らかにした上で、新図書館のビジョンを検討することが常道と考えていたが、こうした分析・考察がほとんど無かったことが非常に残念である。」との意見をいただいた。

また、繰り返しになるが、「本整備方針では様々なアイデアがきれいに整理されているが、開館後の運営資金・人材の計画がないため、本案の実行可能性が予見できない。運営体制・資金等が未定であるなら、当初の機能は、蔵書の充実と貸出機能に集中して、付随的な施設は、開館後の利用状況を見ながら拡充することを提案したい。箱物行政の轍を踏んでほしくない。」との意見もいただいた。

エールエール A 館と現在地（紙屋町周辺）の比較に関しては、「比較表において、現在地建て替えの場合 113.5 億円、エールエール A 館の場合 99.8 億円だが、現地建て替えの耐用年数は 60 年、エールエール A 館の耐用年数は 40 年とすれば、1 年あたりのコストは現地建て替えの方が安価ではないか。」「エールエール A 館と現在地（紙屋町周辺）との利便性の比較において『通勤・通学・買物』の動線が一致・不一致が優劣の差とされているが、その根拠・理由が不明である。」「エールエール A 館と現在地の駅等からのアクセス時間に関して、大型・高層施設内の移動、特に垂直移動の時間が考慮されているのか疑問である。」との意見をいただいた。

コストについては、耐用年数は異なるが、40 年間使った場合の 1 年当たりの支出で比較をしたところである。

また、利便性の比較における動線の一致・不一致について、紙屋町から北側に行かれる方と南側に行かれる方の数を数えたわけではないが、際どい数字の差ではないと考えている。

アクセス時間について、エールエール A 館では 8、9、10 階を想定しているが、エレベーターが多く設置されているのでそこまで時間が多くかかるとは考えていない。

その他には、「これまでに現地建て替えとエールエール A 館移転に関して、賛否両論の住民意見が多数提出されている状況を考えると、今回の検討案を示した上で、再度パブリックコメントを実施することが必要ではないかと考える。」との意見や「自発的な学びの基幹施設である図書館を、多くの市民と協働しながら、様々な考えをすり合わせながら整備していく過程こそが地域づくりの実践ではないだろうか。子供たちが末永く愛着を持ち、誇りを感じられるような図書館づくりが進むことを強く願っている。」との意見をいただいた。

これについては、今回の比較案は、皆さんに意見を伺いながら作った再整備方針に基づいてどちらがより機能を発揮できるかという観点から本市の考えを示したものであることから、再度これについてどちらがよいかを聞くことは考えていない。

(板倉委員)

現在の図書館に行く際に、道が悪いとか段差があるなど言われているので、誰もが行けるような場所に作ってほしい。公共の場というのは、コストをかけてでも、社会的に皆さんが同じように楽しめて同じように利用できるものでないといけないと思う。

また、最初に再整備の話を聞いたときから、場所は半分決まっているような感じだったので、できれば最初はこういうところはどうですかという提案から話を持ってきていただきたい。

(山川副議長)

社会教育委員として、再整備方針の中で、利用者が減ってきたり、ニーズに合わなくなっているところをどうやってアップデートして広島らしさを継承しながら社会教育施設として市民に愛され続けられるものにしていくかを考える場であると思う。前回までは理解できなかったところも一つ一つ答えていただいているので、再整備方針については理解している。しかし、理解しているからと言って、これが全て大正解と思っているかという点、先ほどのような相容れない状況をコンセプトに入れているので、このままでは場所の選択は難しい。また、「誰もが学び、憩う」のところという点、現在の図書館はバリアフリーではないので、障害の有無や国籍にかかわらず誰もが利用できるということを建て替えまたは移転に際して実現する必要がある。「平和文化の情報拠点」のところという点、現在地で継承されているものが今後エールエール A 館でどのように継承できるかについては、きちんと示していただかないと理解し難い状況がある。

場所については、再整備方針が叶う場所なのかという観点になると思うので、そうした議論が必要だと思う。その過程で、この社会教育委員会会議のメンバーだけでいいのだろうかという御提案があったと思うが、そこについては、一旦事務局で持ち帰って考えていただけないだろうか。場所の専門家ではないので。じゃあ、専門家集団だけでいいのかという点、市民の声が入らないかもしれないということで、パブリックコメントがもっと必要ではないですかという金谷先生の御意見があったと思う。再整備方針までは私は理解したので、これを叶えるための比較検討の方法についてももう少し議論を深める必要があると思う。

(生涯学習課長)

皆さんからいただいた意見を踏まえてしっかりと受け止めた上で、最終的には広島市として判断をしたい。

(次長)

理解が得られたのかという点について、理解の意味はいろいろあるが、図書館に限らず、それぞれいろいろな考え方があって、賛成・反対はある。これまで行政に関わってきた中で、一つの事象でも様々なものの見方や意見があり、それを受け止めた上で、行政としてどこを目指すかというところを四苦八苦しながら考えて説明させていただいたところである。賛成が100というのは難しいと思うが、努力は今後も重ねていく所存である。

平和文化の継承については、何をもって継承というイメージを持っておられるのか、また今度教えていただきながら考えていければと思う。その辺りも含めて、場所を決めたときに、そこで何ができるかについて検討していきたい。

(砂橋議長)

委員の皆様による熱心な御審議を踏まえて、私からは三点お願いしたい。

一点目は、平和文化の情報拠点というコンセプトから見たときにどうなのかについてまだまだ議論が必要である。

二点目は、金谷委員の意見にもあったように、移転してからが実は大変だが、その議論がまだされていない。移転してよかったと思えるためには何が必要なのか、議論が必要である。

三点目は、社会教育委員の役割は何なのかということである。我々は熱意をもってこの場に参加しているので、課題があれば声を掛けていただきたい。

以上をもって、閉会する。